

一関市議会 産業建設常任委員会 記録

会議年月日	令和7年2月12日(水)			
会議時間	開会	午後4時35分	閉会	午後5時21分
場 所	第3委員会室			
出席委員	委員長 小野寺 道 雄		副委員長 佐 藤 敬一郎	
	委 員 齋 藤 禎 弘		委 員 猪 股 晃	
	委 員 岡 田 もとみ		委 員 小 山 雄 幸	
	委 員 千 田 恭 平		委 員 佐 藤 浩	
遅 刻	遅 刻 なし			
早 退	早 退 なし			
欠席委員	欠 席 なし			
事務局職員	伊藤主任主事			
紹介議員	なし			
出席説明員	千葉農林部次長(生産流通課長)、日下畜産園芸係長、 北部農業技術開発センター佐藤副所長・佐藤農業技術員、 齋藤主任主事			
参考人	なし			
本日の会議に 付した事件	所管事務調査 ・有機農業の取組について ・政策提言について			
議事の経過	別紙のとおり			

# 産業建設常任委員会記録

令和7年2月12日

(開会 午後4時35分)

委員長 : ただいまの出席委員は8名です。  
定足数に達しておりますので、これより本日の委員会を開会します。  
録音、録画、写真撮影を許可しておりますので、御了承願います。  
お諮りいたします。  
本日の所管事務調査に当たり、当局から農林部次長の出席を求めたいと思います。  
これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

委員長 : 異議がありませんので、議長を通じて農林部次長の出席を求めることといたします。

(休憩 16:36~16:36)

委員長 : 再開します。  
これより所管事務調査を行います。  
本日の案件は、御案内のとおりであります。  
初めに、有機農業の取組についてを議題といたします。  
当局より説明を求めます。  
千葉生産流通課長。

生産流通課長 : 配付いたしております有機農業の取組についてという資料について説明をいたします。

まず大きな1番目の当市の計画と現状についてであります。こちらについて一関地方有機農業推進協議会が策定をいたしました一関地方有機農業実施計画についての目標などを記載しておりますが、こちらについて以前に説明した経過もあろうかと思っておりますので、説明を割愛いたします。

お目通しをいただきたいと思います。

(1)の3つ目の黒ポツの学校給食への有機米の供給回数なのですが、令和6年度は3回を予定しております。

次に、2の令和7年度予算について説明をいたします。

(1)有機農業推進支援事業費ですが、予算の概要103ページでございます。

予算額は550万円で、地域おこし協力隊に係るこれは住居費も含めた活動費の委託料として計上しております。

令和6年7月から募集をしてきたところでございますが、ようやくその任用にめどがつきまして、令和7年3月から着任をしていただける予定となっております。

(2)の有機農業産地づくり推進事業費補助金ですが、予算の概要は106ページでございます。

何とか生産者を増やしていくというような取組を検討して、新規事業として取り組むものであります。

予算額が46万円でございます。

これは、有機農業の産地づくりを図るため、有機農業に取り組む生産者などが有機JAS認証を取得する経費に対しての補助を検討したものであります。

新規に取得される方は5万円ですとか、継続の場合は3万円ですとか、要件としては有機農業推進協議会のほうに会員として加入していただくということを要件にしているものでございます。

大きな3番目の令和7年度の活動計画でございますが、まず地域おこし協力隊の活動ということで、必要な支援は行政側としてはしますが、隊員としての1年目の活動につきましては、基本的な有機農業の知識と技術を身につけていただきながら、いずれ住民との関係づくりに努めていただくということになります。

2つ目のオーガニックフェスタの開催ですが、岩手県の有機農業連絡協議会が主催をして、昨年度は紫波町のほうで開催をいたしました、オーガニックビレッジ宣言をした当市のほうに令和7年度の開催について今、打診をされているというようなことで検討しているところであります。

3つ目につきましては、有機JASの講習会ですとか有機農業の勉強会を開催をし、有機農業の学習機会を提供しながら取り組む農業者を増やしていきたいと考えております。

4つ目は協議会の取組でございますが、有機農業の産地づくりに向けた検討会を年2回開催をしたいと考えております。

これは、会員の方と県や農業改良普及センターなどの関係機関も含んだ検討会でございます。

課題について協議しながら、こういった取組をすれば推進していくかということについて情報共有をしていきたいというように考えております。

以上の部分について、【国庫】のみどりの食料システム戦略の交付金も活用しながら推進をしてまいりたいというように思います。

最後のポツは、市単の新規の事業も進めていきたいというように思います。

なお、令和6年度の成果としてですが、新たに4名の方が会員に加わることとなりましたので、そういった部分を引き続き普及啓発に努めながら推進をしていきたいというように思っております。

あと、県内他市の状況はというようなことでございますが、花巻市が令和6年11月にオーガニックビレッジ宣言をされまして、その花巻市の有機農業推進協議会が策定した有機農業実施計画の5年後に目指す目標についてホームページに掲載されておりましたので、参考までに掲載をいたしました、取組面積につきましては、令和6年度末の数字で令和7年度から取り組むというような意味でございますが、6ヘクタールを5年後には13ヘクタールに、取組者数を5経営体から8経営体に、3つ目が保育施設、福祉施設、教育施設などへ有機農作物を納入する施設を、今はゼロなのですが、令和11年度には30

施設に増やしたいというような計画に取り組んでいるというようなことを聞いているところでもあります。

以上、資料についての説明は終わります。

よろしく願いいたします。

委員長：質疑を行います。

この際、委員として質疑をしたいので、暫時、副委員長と交代いたします。

副委員長：それでは、暫時の間、委員長の職務を行いますので、よろしく願いいたします。

質疑を行います。

小野寺委員。

小野寺委員：私から確認したいと思いますけれども、令和7年度予算では550万円予算措置をしておりますけれども、このうち、地域おこし協力隊員の報酬等については550万円という捉え方でいいのか、その内訳についてお願いいたします。

副委員長：千葉生産流通課長。

生産流通課長：詳細な内訳については、資料を持っていないのですが、いずれ人件費とあと住居費ですとか、あとその活動に係る例えばパソコンなどの使用料があれば使用料ですし、あるいは車両などの本人が持っている車や借り上げるその使用料ですとか、そういった部分も一切含んでの予算が550万円ということでございます。

副委員長：小野寺委員。

小野寺委員：そうすると、550万円はあくまでも地域おこし協力隊員の活動費というような捉え方でよろしいですか。

副委員長：千葉生産流通課長。

生産流通課長：はい、人件費も含んだ活動費です。

副委員長：小野寺委員。

小野寺委員：それから、今日これの前に令和7年度予算の勉強会をやって説明を受けたのですが、3か年の実施計画の中では、令和7年度、令和8年度と2か年は550万円、それから令和9年度は275万円という予算になっているようではございますけれども、その辺はどのような形になるのかお伺いします。

副委員長：千葉生産流通課長。

生産流通課長：任用はあくまでも3か年でございますので、この550万円はまるっと1年間分の費用なのですが、任用期間によりまして、あるいはその端数などが生じる場合もありますし、あるいはその実施計画の要求、あるいはこれから任用するのとちょっと合致していないという部分も若干あるかもしれません。

副委員長：小野寺委員。

小野寺委員：そうすると再度確認しますが、令和7年度の実質的な有機農業推進費というのは、資料にあります46万円という捉え方でいいのかどうか確認します。

副委員長：千葉生産流通課長。

生産流通課長：地域おこし協力隊の活動費以外の推進する事業費というようなことであれば、今、お話があったとおり46万円でございます。

副委員長：小野寺委員。

小野寺委員：終わります。

副委員長：それでは、委員長と交代いたします。

委員長：小山委員。

小山委員：今、地域おこし協力隊のことが出てきたのですが、この方が3年間勤務することなののですが、地域おこし協力隊というと別の職種の方が就く場合があるのですが、この方は有機農業に特化した専門職というか、そういう知識のある方が隊員になるのでしょうか。

委員長：千葉生産流通課長。

生産流通課長：いずれ有機農業をやっていただきたい方ということで募集をしておりますので、実際に農業従事というような経験はなくても、そういった知識ですとか意欲がある方だということに捉えましたので、採用をすることに決定したところであります。

委員長：小山委員。

小山委員：協力隊として皆さんと共にやるときはある程度の知識というのも必要ではないかと思うのですが、そういう研修みたいなことをしながら有機農業についての普及を図っていくという形になるのでしょうか。

委員長：千葉生産流通課長。

生産流通課長：先ほど令和7年度の経営活動計画の中で申しあげましたけれども、1年目はいずれ基本的な知識と技術をその協議会の小島会長を中心に基本的なところを学んでいただくことを想定しております。

委員長：小山委員。

小山委員：そうすると、その有機農業推進協議会の会長の補助的なことをしながら普及をしていくという形になるのですか。

委員長：千葉生産流通課長。

生産流通課長：そのとおりです。

委員長：猪股委員。

猪股委員：今の地域おこし協力隊の関係なのですけれども、1年から3年の間である程度、資質向上をしていただいて、これ地域おこし協力隊は移住定住が目的なので、その後ここに定住をして有機農業で食っていくというような展望というか、それはかなりハードルが高いのではないかと私自身は思っております。

今のやっている方々として、なかなか厳しい状況かと思っておりますが、ちょっとそこから辺のいわゆる販売先とかの部分も含めて、今の有機農業に携わっている人たちが規模拡大して販売拡大というようなことで所得を上げていくというようなことを、その人の努力というよりは、全体的な取組としてやはりそういうような方向性に持っていく、計画はそのとおりなのですけれども、なかなかハードルが高いと思っております。

行政支援としてのやり方にも少し限界はあるとは思っておりますけれども、しよせんはやる人たちの部分が強いのかと思っております。

やはり、もうちょっと何ていうか、積極的な支援なり仕組みというか、仕組みを構築といってもなかなか行政サイドでどうこうするのは難しいところがあるかと思うのですけれども、もうちょっとそこを行政サイドとしても支援をするような体制なり事業なりを起こしていかないと、なかなか思うような方向にはいかないのではないかと思います。

このJAS認定だけの補助金だけでは、なかなか事業が進まないと思っているところがありますが、一応、行政側の今後の展開方向として、今の時点では、なかなか予算化とか事業化という話はできないかもしれませんが、そういう方向性のある話というのは今の時点でビジョンなり何なりというのを持っているものなのか、お伺いしたいと思います。

委員長：千葉生産流通課長。

生産流通課長：まずは、いずれ取り組む農業者を増やしたいというようなことで今回の事業についてお願いをしたところでございますし、あと実際に取り組んだ上で、今までもその検討会の中で販路というような話もあったと思うのですが、具体的にその学校給食にというような話を聞きますが、それ以外に販路というようなことは伺ってはおりませんので、そこら辺はちょっと教育委員会の考えもございませけれども、そういう新規の方のその課題も含めて考えた上で、引き続き必要な支援について考えていきたいというように思います。

委員長：猪股委員。

猪股委員：公共調達を広めていくというやり方は、作付面積なり取り組む方々の拡大を図るには非常に有効な手法で、他の自治体でもそういうようなところをやっていると思います。

しかし、今の学校給食の米の値段は普通の米と同じ値段で買っている。

それを何回も広げていきます、例えば野菜も入れていきますというような話になった場合に、果たしてそれが公共調達はしますけれども、所得のほうまでフォローできる仕組みなのだろうかと少し疑問なところがあります。

そこら辺の公共調達の今後の方向性という部分は、何か考えている取組があればお答えいただきたいと思います。

委員長：千葉生産流通課長。

生産流通課長：公共調達のことについては御回答できませんが、実は昨日ちょっと縁がありまして、岩手県が台湾への物産店を開催しますよというようなことに対しまして、当市の一関地方有機農業推進協議会のお米も出店した経過がございます。

その有機農業推進協議会の会員の方のお米なのですが、ある程度こちらの言い値、送料も含んだ言い値で取引、買取りの中でやっていただいていた経過がありますので、そういった先方のニーズに対応できるかどうかということも課題なのですが、いずれ販路としてはそういった可能性も出てきたということで捉えております。

委員長：猪股委員。

猪股委員：視点を少し変えた質疑も一点だけしたいと思います。

オーガニックビレッジというようなことで、どちらかというに一関市全体としてのそういうようなイメージというか、有機農業に対する取組をするというような部分で宣言をしたわけなのですが、実は一関市の中では、藤沢地域の農業公社のほうでかなりの面積の有機農業の麦とか作っているわけですが、JAS認定も受けています。

これらが何で入ってこなかったのかというのは、声かけがなかったのか、声かけはしたけれども、そういう人たちがはまってこなかったのかというような、いろいろな事情

があったのかと思います。

やはりオーガニックビレッジというような位置づけにすると、一関市の全体的なイメージを持たれる消費者なり、対外的なアピールというような部分があるのかと思いますが、そこら辺の取り込みなり協調なり、連携なりというようなことは何か考えているものかどうか、最後にお聞きしたいと思います。

委員長：佐藤農業技術センター副所長。

農業技術センター副所長：藤沢の公社が協議会に入らなかったのか、誘わなかったかどうかは分からないのですが、出だしが、大東町有機農産物等生産組合が発信地だったので、いずれそこが全体に広めようということで、一関地方有機農業推進協議会に変わってきた経過はあるので、大体が米を主体というような形の中で始まってきたというようなこともあって、なかなかそこまで及ばなかったというのが現実だというように思っているのですが、これからはオーガニックビレッジ宣言をした中で一関という大きなくくりの中にそういうような麦なり野菜なりというような有機農業者を取り込む、連絡協調をしていく場を設けていければなというように今のところ考えているところであります。

委員長：齋藤委員。

齋藤委員：令和7年度の活動計画についてであります。生産に取り組む方を増やすというような取組がメインというように捉えましたが、作ったものを販売する、出口のほうについて、具体的にどのようにお考えになっているのかお聞かせください。

委員長：千葉生産流通課長。

生産流通課長：新たに加わられた方も、水稻を主に栽培されるというようなことを伺っております。

いずれ協議会の方、それぞれが販路をお持ちのようでございますので、そういった組織として情報交換をしながら対応していくのかということにも思いますが、大東地域で道の駅もオープンするというようなことで、そこも一つの販路になることを期待しているところであります。

委員長：齋藤委員。

齋藤委員：そうすると、販路については生産者自ら探すということで、行政としては一切関わらないというようなものなのでしょうか。

委員長：千葉生産流通課長。

生産流通課長：齋藤委員のお話のように、はっきりということではなくて、先ほど台湾のお話もし

ましたし、なかなかグレーなところであまり生産者の人たちがはっきりこう言えないと  
いいですか、公共調達のことについては先ほどお話があって、そういったことは要望と  
してはあるのですが、ほかの販路というようなことの課題があるのであれば、積極的に  
相談に応じてまいりたいというように思います。

委員長：齋藤委員。

齋藤委員：令和7年度の活動計画はこのとおりなのですが、これらを組み立てる上で、全  
国のこの先進事例というのは多数ありますけれども、参考にされた自治体とかあるので  
しょうか。

委員長：日下畜産園芸係長。

畜産園芸係長：令和7年度から新たに市単事業、有機農業産地づくり推進事業ということで、今  
回予算計上させていただくのですが、この事業をつくるに当たっては、宮城県栗原市で  
取り組んでいる事業などを参考にしながら、一応組立てをしていくということで調整し  
ております。

委員長：齋藤委員。

齋藤委員：全国では有機栽培の水稻がゼロの自治体から今や拡大したという千葉県いすみ市が先  
進事例としてあります。

ここは、技術指導はさることながら、その出口についてもきちんと自治体が有機米を  
一定の価格で買い上げて、学校給食に使っているというような、そういった事例もあり  
ます。

そういった事例も参考にして、出口もきちっと自治体のほうでも責任を持ってとい  
うには言いませんけれども、確保するというそういった取組が必要ではないかと、こ  
れは意見として申し上げておきます。

以上です。

委員長：佐藤敬一郎委員。

佐藤（敬）委員：先週だったと思いますが、藤沢の株式会社若葉で有機農業の講習会か何かやり  
ましたよね。

委員長：千葉生産流通課長。

生産流通課長：市も共催しているといいますか、市の施設を指定管理している株式会社若葉が  
主体的に頑張っていたかと思うのですが、今週、川崎会場で実施する予定で  
すが、その際は農林部生産流通課の職員も一緒に参加する予定でおります。

委員長　：佐藤敬一郎委員。

佐藤（敬）委員：勉強会か講習会かちょっと分からなかったのですが、内容はこういったことをやっているのでしょうか。

委員長　：日下畜産園芸係長。

畜産園芸係長：今回、有機農業勉強会ということで、藤沢市民センターと川崎市民センター２回行うことで、２月８日と１５日の２回を予定しています。

内容的には、有機農業の初心者向けの講習会ということで、化学肥料・農薬を使わないで作れる野菜の栽培講習と併せまして、あとは、市内に２つの有機肥料センターがございます。

有機農業を普及するに当たって、そういった化学肥料を使わなくても、そういった地元にある有機肥料を活用しながら有機農業を普及するというので、有機肥料センターの堆肥のコマーシャルもさせていただきましたし、上手な堆肥の使い方の講習ということと併せまして、あとは実際に堆肥を使って生産されている法人にも、実際使ってみての効果ですとか、そういったところについてお話をいただいたということで、次回１５日に行う川崎会場でも同じような内容です。

最初は定員５０名だったところが、藤沢会場は６０名、今度の川崎会場も７０名を超える方々に興味を持って参加していただくという予定にしております。

委員長　：佐藤敬一郎委員。

佐藤（敬）委員：参加された方は、こういった方が多かったですか。  
農家が多いのですか。

委員長　：日下畜産園芸係長。

畜産園芸係長：実際にどういう方々が参加したかというのは名簿を確認していないわけですが、実際に家庭菜園を含めて実際に野菜を作っている方々、今回の案内を産直ですとか道の駅の構成員を中心に案内を出しましたので、実際に自宅で大小限らず生産されている方々が参加されたのかというように見受けられました。

委員長　：佐藤敬一郎委員。

佐藤（敬）委員：はい、分かりました。

委員長　：ほかにございますか。

(「なし」の声あり)

委員長 : なければ、質疑を終わります。  
以上で、有機農業の取組についての調査を終わります。  
職員退室のため暫時休憩します。

(休憩 17:05～17:06)

委員長 : 再開します。  
次に、政策提言についてを議題といたします。  
この後、暫時休憩を取り、当委員会で行う政策提言の作成についてと進め方を協議し、自由討議の形で内容の確認を行いたいと思います。  
その後、会議を再開し、意見交換を行いたいと思います。  
さよう進めることに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

委員長 : 異議なしということで、この後、暫時休憩いたします。

(休憩 17:06～17:19)

委員長 : 会議を再開します。  
意見交換を行いたいと思います。  
猪股委員。

猪股委員 : 政策提言の今後の進め方ですけれども、やはり、農業者の方々が、行政に対してどのような要望なり意見なりを持っているかということ把握した上で、提言をまとめていくべきと考えますので、今後のスケジュールの中に、なるべく早くにそういう方々の意見を聞いて、それから政策提言に向けてどういうスケジュールで提言をまとめていくかというようなことを考えるというような流れで進めていただければと思います。  
よろしくをお願いします。

委員長 : そのほかにございませんか。

(「なし」の声あり)

委員長 : それでは農繁期に入る時期とも重ならないように、都合のいい日程を決めて再度、有機農業に取り組んでいる方々の御意見を聞くということで、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

委員長 : それでは、そのように進めることにいたします。

それでは、政策提言の進め方の共有のため意見交換もあったので、ほかになれば、本日の政策提言についての協議はこの程度といたします。

引き続き、当委員会からの政策提言について、協議を行うこととし、次回の委員会の日程については、正副委員長に一任いただくことに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

委員長 : 異議ありませんので、さよう決定しました。

日程については後日お知らせいたします。

以上で、政策提言について、本日の調査を終了します。

以上で予定した案件を終わります。

そのほかにも皆さんのほうから何かございませんか。

(「なし」の声あり)

委員長 : なければ、以上で本日の委員会を終了いたします。

御苦労さまでした。

( 午後 5 時 21 分 終了 )